



株式会社 浅沼組

会社説明会

2023年3月11日（土）

東証プライム市場

証券コード：1852

誇れる歴史がある
創りたい未来がある



1. 浅沼組のあゆみ
2. 創業理念
3. 連結 受注と売上
4. 中期3ヵ年計画と進捗
5. エコフレンドリー-ASANUMA 21の取り組み
6. サステナビリティ推進
7. コーポレートガバナンス
8. Topics
9. 社会貢献活動他
10. 会社概要



浅沼組のあゆみ



1692

柳澤吉保が武蔵国川越城を賜り城持ち大名となった際、普請方の一人として、浅沼仁左衛門が仕える。

1724

柳澤吉里の甲府から大和国郡山への転封に浅沼仁左衛門も普請方として随伴以後、仁左衛門から8代目の浅沼幸吉まで、普請方を務める。明治維新以降、浅沼幸吉は郡山にとどまり、大工棟梁として、奈良付近の名刹社寺の造営、修繕や学校建築に従事する。

1892

創業 浅沼幸吉、郡山町大字材木47番地(現 大和郡山市材木町)に、建築請負業の看板をあげて開業「浅沼組」誕生

1901

浅沼猪之吉(初代)、浅沼組を継承

1926

大阪進出 大阪支店開設(大阪市東成区小橋町)

1934

浅沼猪之吉(二代目)、浅沼組を継承

1937

会社設立 株式会社浅沼組設立
資本金1百万、完工高1,448千円、社員数62名
大阪支店を本店に昇格(郡山の本店は営業所へ)

1939

東京・名古屋進出
東京営業所開設(現 東京本店)
名古屋営業所開設(現 名古屋支店)

1955

広島・東北進出
広島出張所開設(現 広島支店)
仙台営業所開設(現 東北支店)

1957

北海道進出
札幌営業所開設(現 北海道支店)

1963

株式上場(大阪二部)、九州進出
福岡営業所開設(現 九州支店)

1968

大阪証券取引所 市場一部に指定替

1969

東証一部上場

1975

浅沼茂夫 社長就任

1977

完工高1千億円超える

1987

会社設立50周年 技術研究所発足

1989

浅沼禎夫 社長就任

1990

上場来最高値を記録

1992

創業100周年 CI導入、新社章の制定

1995

浅沼健一 社長就任

2017

創業125周年 新経営方針及び、コーポレートスローガン制定

2018

浅沼誠 社長就任

2022

創業130周年
東京証券取引所プライム市場に移行



1882 吉野師範学校



1896 奈良県立畝傍中学校



1970 万博 ラオス館



1892 奈良県立郡山中学校



1912 六十八銀行本店

創業理念

浅沼組の創業理念は、創業者である浅沼幸吉の「仕事が仕事を生む」という事業に対する信念を実現するために創業以来変わることなく受け継がれてきたものです。この信念は、立派な仕事をすることで会社の信用が生まれ、その信用こそが次ぎの仕事をいただく最大の資本になるという信念を意味することばです。

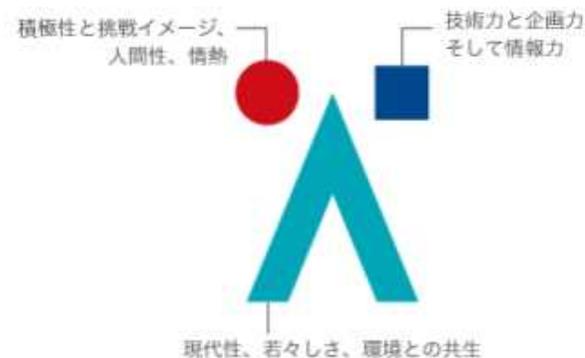
「和の精神」

- 何事にも、皆が協調性を以って取り組むこと、しかし、決してむやみに同調するのではなく、個々が主体性を失わず、自らも他人にも正直に、互いの考えをぶつけ合い、尊重し、理解しあうこと

「誠意・熱意・創意」

- 私利私欲を離れ、正直に熱心にことにあたる心(誠意)
- 何事に対しても常に挑戦する気持ち(熱意)
- 常に新しく独創的な考えを持つ意識(創意)

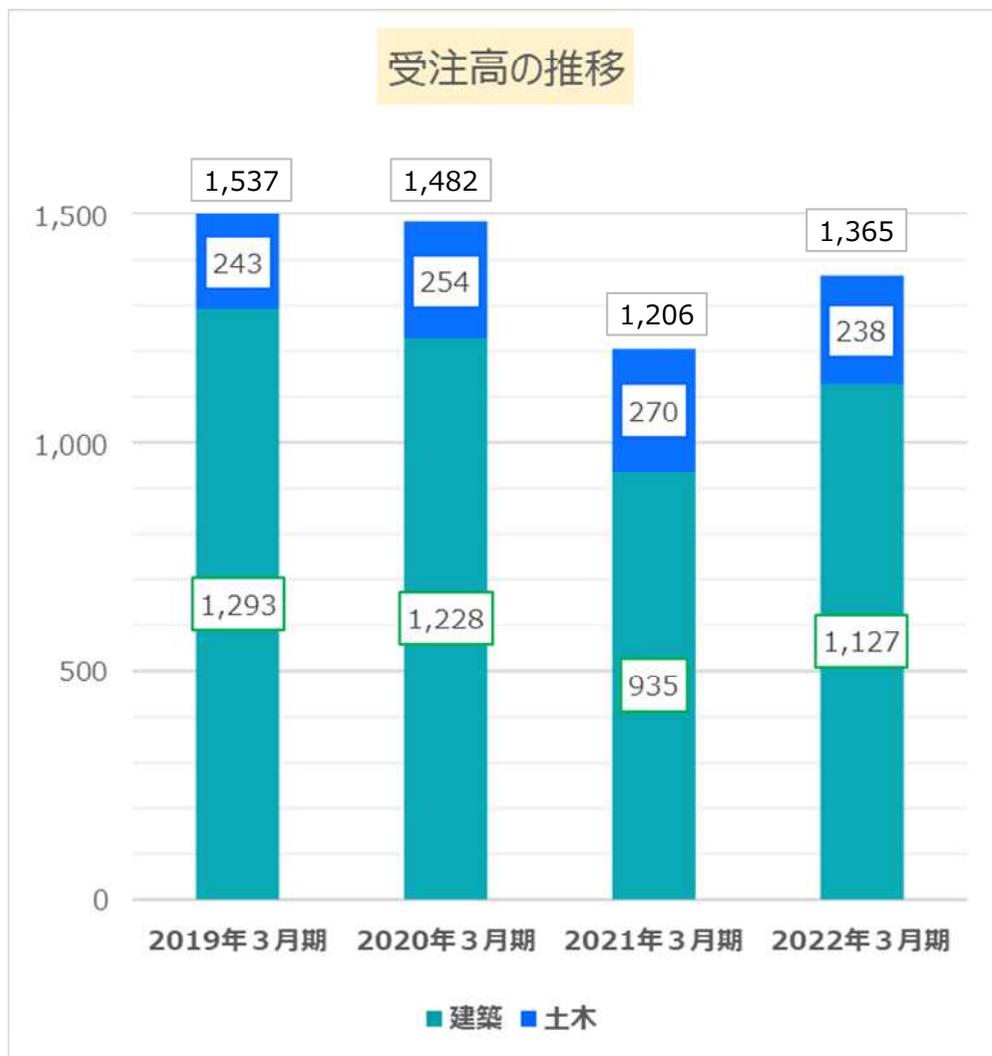
コーポレートマークについて



企業理念イメージ



(単位：億円)



長期ビジョン

「外部環境の激しい変化に対し独自性を発揮し果敢に挑戦し続ける企業」

— 基本方針 — 浅沼組らしさ(独自性)を深耕させ 「変化に挑戦」

外部環境変化 への挑戦	★ 長期的に縮小する国内建設投資とインフラ・建築構造物の老朽化により、堅調に推移する国内維持・修繕投資
	1. 『ReQuality』リニューアルブランド戦略の推進 2. リニューアル技術の高度化 3. ASEAN地域におけるリニューアル強化
	★ 建設分野における生産労働人口の減少
	1. 協力会社との協働推進 2. DX推進
	★ 非財務経営活動(ESG・SDGsなど)による企業評価向上の機運
	1. エコフレンドリーASANUMA21の推進 2. サステナビリティの推進 3. コーポレートガバナンス

中期3ヵ年計画 進捗



(単位：億円)

主な指標 (連結)	2022/3期			2023/3期				2024/3期
	中期計画	実績	中計比	中期計画	修正計画	3Q実績	進捗率	中期計画
受注高	1,321	1,365	44	1,415	1,416	1,058	74.7%	1,466
完成工事高	1,390	1,344	△45	1,345	1,433	1,021	71.3%	1,363
完成工事 粗利益	136	131	△4	149	143	99	69.4%	151
完成工事 粗利益率	9.8%	9.8%	—	11.1%	10.0%	9.7%	—	11.1%
販管費	85	86	—	87	90	70	77.8%	87
営業利益	53	48	△5	65	56	35	62.7%	67
親会社株主に帰属する 当期純利益	42	37	△4	44	41	28	69.6%	45
配当	363円	363円	—	* 191円 (382円)	* 191円 (382円)	—	—	* 197.5円 (395円)
配当性向	70.2%	78.1%	7.9P	70.1%	74.8%	—	—	70.4%

* 当社は、2022年8月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っており、2023年3月期の1株当たりの配当予想については、当該株式分割後の金額を記載しております。

- 営業利益率 : 2024年3月期において5.0%以上を確保
- 自己資本利益率 (ROE) : 3ヵ年とも10.0%以上を確保
(株主資本コストを上回る水準)
- 投下資本利益率 (ROIC) : 3ヵ年とも資本コストを上回る水準

主な経営指標 (連結)	2022/3期			2023/3期			2024/3期
	中期計画	実績	中計比	中期計画	修正計画	中計比	中期計画
営業利益率	3.8%	3.6%	△0.2P	4.8%	3.9%	△0.9P	5.0%
自己資本利益率 (ROE)	10.1%	9.0%	△1.1P	10.2%	9.5%	△0.7P	10.0%
株主資本コスト	8.0%	7.5%	△0.5P	8.0%	7.5%	△0.5P	8.0%
投下資本利益率 (ROIC)	7.1%	6.4%	△0.7P	8.3%	7.3%	△1.0P	8.3%
資本コスト (WACC)	6.0%	6.1%	0.1P	6.0%	6.0%	—	6.0%

2021年11月18日開示

「新領域関連投資（ASEAN地域リニューアル強化）」の一部の投資額が確定したことを踏まえ、それ以外の「技術開発・ICT関連投資」を含めた全体の資金投入計画を改めて検討・見直しを行ったことにより、当初の資金投入計画を減額し、株主還元を増額。

	修正前 3ヵ年累計	修正後 3ヵ年累計	2022/3期 実績
○技術開発・ICT関連投資 ・リニューアル技術の高度化 ・DX推進	30億円	29億円	15億円
○新領域関連投資 ・ASEAN地域におけるリニューアル強化	50億円	34億円	29億円
計	80億円	63億円	44億円

	修正前	修正後	2022/3期 実績
連結配当性向	50%以上	70%以上	78.1%

目標

2024年3月期に建築リニューアルの営業利益を連結営業利益の35%に

建築リニューアル 計

(単位：億円)

	2022/3期	2023/3期	2024/3期
	実績	3Q実績	中期計画
営業利益シェア	30.0%	30.4%	35.9%

国内 建築リニューアル

受注高	166	148	300
完成工事高	170	114	300
営業利益	15.0	2.0	17.4
営業利益シェア	31.1%	8.1%	25.8%

ASEAN 建築リニューアル

受注高	25	72	66
完成工事高	23	74	66
営業利益	△0.5	7.8	6.8
営業利益シェア	△1.1%	22.3%	10.1%

『ReQuality』 名古屋支店改修P1

2 - 7F ベランダ



8F 会議室



全景



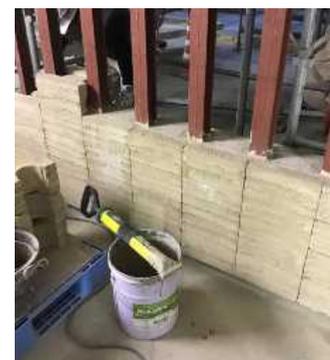
- ・ 自然素材（土・木）を多用



ヘルスケア空間改修



廃材（石材）から作った
応接セット



残土を利用した
環土ブロック

- ・ 新築として建て直す場合と比べ、CO2排出量を85%削減
- ・ 改修前に比べ、エネルギー消費量を52%削減、ZEBready認証 取得
- ・ 健康・快適性を基準に建物を評価するWELL認証ゴールドを取得
(築30年のビル全体をリニューアルし、認証を受けるのは日本初)

技術研究所の増改築

①	研修エリアを拡充 ・若手社員や協力会社の技術者の研修、 体験型教育の実施
②	耐震・免震技術の高度化 ・地震モニタリングシステムを設置し データの収集・分析 ・試験機器の更新
③	多目的実験スペースの設置 ・全天候対応の大型実験スペース
④	ICT関連システム (BIM,CIM,3D,VR) の活用と導入の推進

①既存棟
研修エリア



②増築棟 制振ダンパー



全景



③増築棟 多目的実験スペース

耐震補強提案

○免震や制振構造に改修

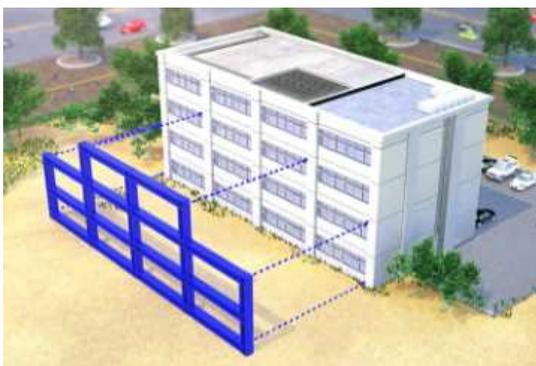
- ・建物の使用を継続しながら施工が可能



免震ダンパーによる補強 制振構造による補強

○自由度の高い耐震工事

- ・建物の外壁から補強する工法でニーズに合わせた施工が可能（フィルフレーム工法）



長寿命化による低炭素化へ

○長寿命化のための技術力

- ・コンクリートのひび割れを制御（目地へ誘発）し、壁面や床面をきれいな状態に保存し、長寿命化に寄与（CCB工法）



CCB工法



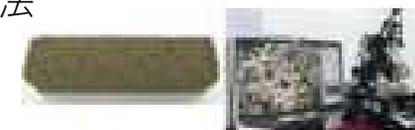
床CCB工法

- ・CCB工法と目地充填材によりひび割れを分散させ、壁紙へのしわを最小化

PRS 目地充填工法



PRS目地



PRS 目地充填材

(単位：億円)

海外子会社の現況						
シンガポール						
名 称	取得	事業内容	2023/3期		3Q実績	
			受注	完工高	営業利益	のれん
SINGAPORE PAINTS & CONTRACTOR PTE. LTD.	2018年10月	建物塗装 修繕工事	34	23	0.3	0.2
EVERGREEN ENGINEERING & CONSTRUCTION PTE. LTD.	2022年1月	建物メンテナンス 電気・設備工事	38	50	10.2	2.4
タイ						
JICA（国際協力機構）SDGsビジネス支援事業 普及・実証・ビジネス化事業の進捗について						
<p>株式会社浅沼組、東レ株式会社、東レインターナショナル株式会社にて、炭素繊維シートによる橋・高架橋の補強事業を推進中</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年にJICA SDGsビジネス支援事業に採択。2023年1月に事業の契約を完了 ・現在、タイ国運輸省道路局所管の橋・高架橋の補強工事の施工を準備中 						
名 称	事業内容		設立			
Thai Asanuma Holdings Co.,Ltd.	持株会社		2021年6月			
Thai Asanuma Construction Co.,Ltd.	高速道路・橋梁のメンテナンス		2021年7月			

<p>建設キャリアアップシステム (CCUS) の推進</p>	<p>○建設業の魅力向上に向けて、建設技能者の処遇改善、職歴や経験値の明確化、施工能力の見える化を目的としたシステム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サポート事務局設置・オンライン説明会の実施
<p>浅沼マイスターの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・協力会社の職長の中から浅沼マイスターとして選任 ・奨励金の授与を行い賃金面から処遇を改善 ・CCUSへの登録を対象要件として2023年度認定更新より追加 
<p>協力会社との研修</p>	<p>○協力会社で構成する弥生会の会員の技術者を対象に研修会を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サステナビリティ基本方針、人権方針、調達方針の周知 ・VRや安全帯による安全講習  
<p>作業所生産性向上策表彰及び発表会開催</p>	<p>○各作業所における協力会社との協働による生産性向上策を募集し、表彰、発表会を開催</p>  
<p>支払い現金化</p>	<p>○2020年1月支払いより全ての支払いを全額現金支払い</p>

D X 推進委員会の取り組み①

① BIM・CIM関連の導入推進

<導入のメリット>

- ・設計図面の3次元化による仕様や構造の検討の効率化
- ・設計段階だけでなく施工時やその後の維持管理時における関係者間の合意形成・情報共有が容易
- ・工程管理の効率化、高度化
- ・ミスや手戻りの減少、安全性の向上



仮設計画のモデル化

② タブレットを使用した効率化

- ・工事写真の整理、一元管理
- ・各作業工程の検査
- ・会議システムとの連携によりリアルタイムの監理が可能



タブレットで仕上がりの検査



遠隔地からの監理が可能

③ 他社との共同開発

- ・建設RXコンソーシアム：ロボット、パワースーツなど
- ・共研21：配筋検査

④ 業務の電子化

- ・契約書、注文書、請求書などの電子化：CI-NETの導入拡大へ
- ・建退協の事務手続きの電子化：CCUSとの連携拡大へ

D X 推進委員会の取り組み②

⑤VRの活用

○安全教育

- ・ 個別の作業所ごとに今後設置する足場の配置をVRで再現（簡易的な標準版での再現も可能）
- ・ 事前にVRで再現することにより、今後の作業手順の確認が可能
- ・ 作業イメージが出来、安全意識の向上が図れ、新たな気づきや手戻りの防止などに繋がる



VRモデル（点群データ+3Dモデル）



VRによる安全教育訓練実施状況

○施工検討会



○郊外授業状況

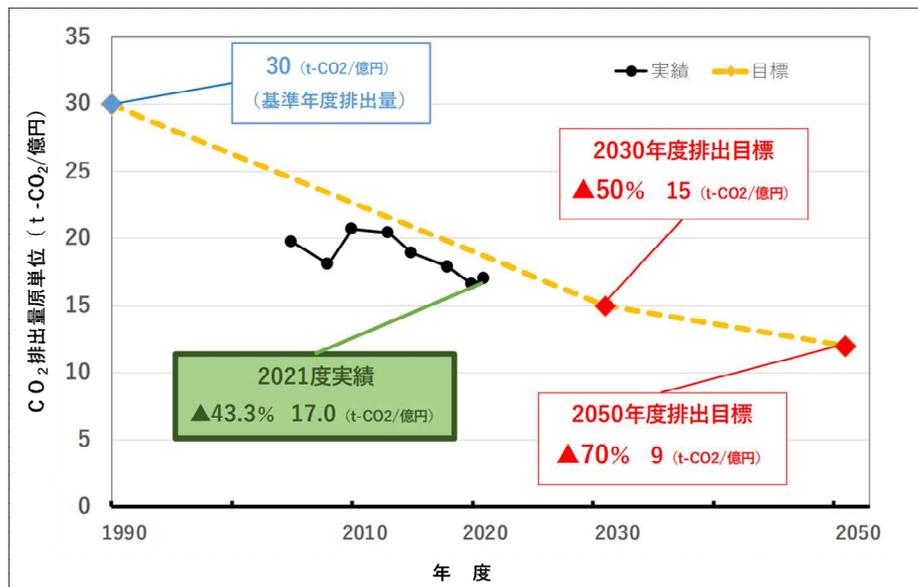


脱炭素への取り組み

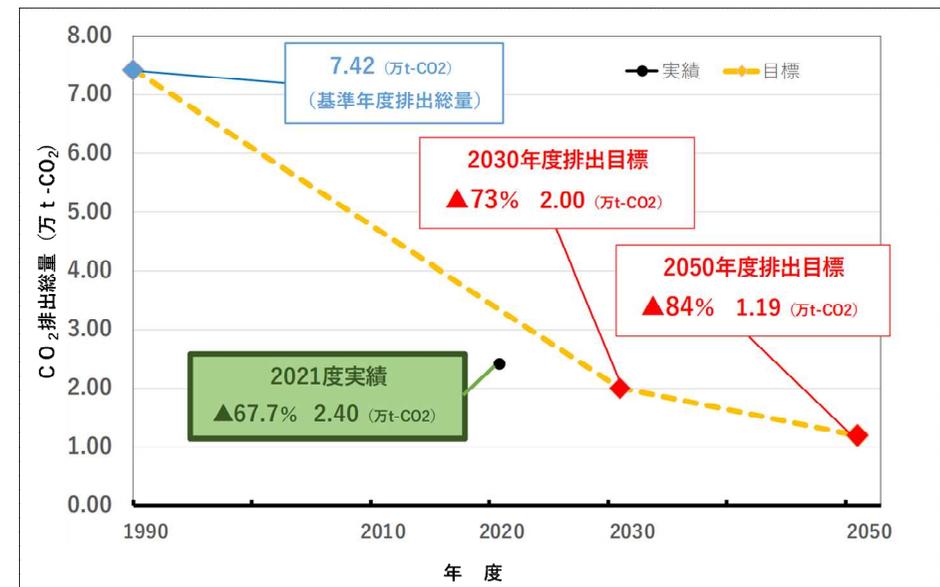
長期CO₂削減目標

- ①施工高1億円当たりのCO₂排出量を1990年度比で2030年度までに50%、2050年度までに70%削減」(原単位目標 2010年度より継続 2021年度更新)
- ②CO₂総排出量を1990年度比で2030年度までに73%、2050年度までに84%削減」(総量目標 2022年度新設)

CO₂削減の推移



原単位目標 (2021年度更新)



総量目標 (2022年度より)

4月からの取り組み
について

お客様にお引渡しした建築物の使用時に排出されるCO₂の削減
(スコープ3) についても目標を設定し取り組む予定

その他の取り組み

作業所における様々な取り組み

CO₂削減

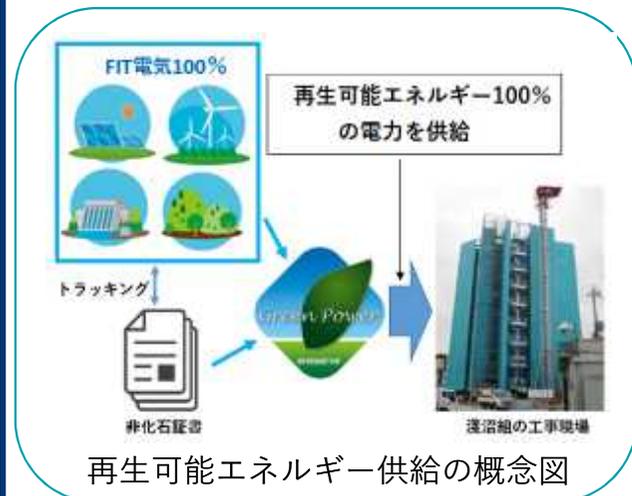
取り組み①

CO₂削減率50%の環境配慮型コンクリートを施工に導入



取り組み②

再生可能エネルギー100%の電力を新規着工作業所全てに導入



2021年度 564,291 kWh

生物多様性の保全

設計施工案件の作業所全てでCASBEE（建築環境総合評価システム）による評価を取り入れ、Aランク評価を50%以上の作業所で獲得を目指す



取組例



生物多様性簡易評価ツール「いきものプラス」を採用し、作業所に隣接する恩知川や緑地等の植樹の選定などを行い、さまざまな環境保全対策に対応

「サステナビリティ推進委員会」の主な取り組み

① 環境経営推進に向けた取り組み

環境経営推進に向け、ワーキンググループを設置し技術面から検討
技術発表会での「環境技術賞」創設し、2022年度より表彰

② TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）関連活動の推進

気候変動関連の中長期的目標
原単位目標に総量目標を追加

③ 人権方針、調達方針策定

サステナビリティ基本方針に加え、人権方針、調達方針を策定し、HPに開示

④ パートナーシップ構築宣言

取引先や価値創造を図る事業者との連携・共存共栄を進め、
新たなパートナーシップを構築することを、
「発注者」側の立場から宣言するもの。



⑤ その他の検討課題

サステナビリティ経営における「KPI」設定と、中核人材や多様性の確保、
人材育成方針や人権に配慮した施策の策定に向けた検討

コーポレート・ガバナンスのさらなる強化	
取締役会の構成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社外取締役の割合 1 / 3 ・ うち女性社外取締役 1名
監査役会の構成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社外監査役の割合 3 / 4 ・ うち女性社外監査役 1名
取締役会の実効性の分析及び評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部機関による実施（2019年度より）
指名・報酬委員会の運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ 両委員会の委員長 社外取締役 ・ 社外取締役の割合 過半数 ・ 開催日数（2020年度 6回、2021年度 7回、2022年度 3回）
役員報酬制度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 譲渡制限付株式報酬制度の導入（2021年度より）
IRの強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機関投資家向け説明会 ・ 個人投資家向け説明会
保有株式について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上場株式の保有適否判断基準 配当と工事粗利益の便益が「株主資本コスト」を下回る場合に縮減 ・ 上場株式残高 2022年3月末時点 <u>37.5億円</u> ・ 連結純資産比率 <u>8.8%</u>



改修後の名古屋支店外観

グッドデザイン賞を受賞
浅沼組の名古屋支店改修PJ
 浅沼組の名古屋支店改修PJ（プロジェクト）が、日本デザイン振興会主催の2022年度グッドデザイン・ベスト100に選出された。

築30年の名古屋支店を環境配慮型ビルへリニューアルしたものの、既存躯体を活用し、自然の光、風へのアクセシビリティを高める改修を行うとともに、土や木などの自然素材を最大限活用している。

審査評価では、循環型の環境配慮ビルとして長期的な視点を持って、実践可能なプロセスまで緻密にデザインされていることなどが高く評価された。

2022/10/17 日刊建設工業新聞

その他 受賞一覧

- ・ crQlr Awards (サーキュラー・アワード) アーバニズム賞
- ・ Sky Design Awards 建築部門Silver賞
- ・ SDGs賞 準グランプリ
- ・ 中部建築賞

D X活用モデル初弾 使用5技術が決定

四国整備局 23年3月に現地見学会

使用する5技術

DX事例集番号	会社名	事例名	事例集掲載ページ
29	鹿島	AI配筋検査システム	57
42	清水建設	リアルタイム自動配筋検査システム	83
71	不動テトラ	点群データを活用した構築物の施工管理	141
74	三井住友建設	リアルタイム鉄筋出来形自動検測システム「ラクカメラ」	147
82	浅沼組	VRによる安全教育訓練	163

選定した技術は、四国地方整備局の建設DX技術活用モデル（選択肢型）工事の初弾となる「令和4年度今治道路五十嵐高架橋下部P47-P49工事」で使用される技術が決定した。施工を担当する白石建設工業が日本建設業連合会（日建連）インフラ再生委員会の「建設DX事例集」から選んだ。日建連が現場条件に適している技術かどうかや使用したい時期に支援可能かどうかを確認。四国整備局と白石建設工業の3者で調整を行い、5技術をマッチングさせた。

選定した技術は、四国地方整備局の教育訓練。工事現場は愛媛県今治市別名。高さ12mの橋脚3基を設置する工事。径1・5mの基礎工を24基施工する。現場条件や納期に問題がなく活用できるとして、橋脚1基ごとに鹿島と清水建設、三井住友建設の技術をそれぞれ試行する。

不動テトラの技術はP47橋脚で試行する。橋脚完成後にヒートマップを作成でき、躯体表面の出来栄や評価など出来形管理への活用が期待できるという。

現場のVR（仮想現実）モデルを作成し、足場設置などの安全教育訓練に役立てる浅沼組の技術は、モデル作成に時間を要するため、今回は一般的なVRモデルを提供してもらい、安全教育訓練に活用する。

各技術は2023年2月上旬から順次現場で使用する。四国整備局は同3月上旬をめどに現地見学会を開催する予定だ。地域の建設業をはじめ、周辺の高校生や技術系大学生、小中学生と支那の保護者にも声を掛ける。企画部技術管理課の水野匡洋課長補佐は「建設業は大きな転換期を迎えていると知ってもらい、最新技術を使用することでインテリジェンスで安全な建設業となることをしっかりとアピールしていきたい」と見学を開催に意欲を見せる。

「建設DX技術活用モデル（選択肢型）」の試行工事は四国整備局独自の施策で一般土木C等級を対象としている。特記仕様書で日建連インフラ再生委員会の「建設DX事例集」に掲載された技術を推奨事例として紹介。受注企業がその中から1技術以上を選択し現場に導入する。機械資材やシステム構築費など必要な追加費用は変更契約できる。地域建設業で課題となる生産性向上を後押しすることにも、業界の魅力を高め担い手の確保につなげる。

2022/12/22 日刊建設工業

浅沼組 社会貢献基本方針

私たちは、社会の一員として社会のあるべきかたちの実現のため、社員一人一人が社会的責任を自覚し、積極的に社会貢献活動を推進していきます。

主な協賛団体の活動報告



日本身体障害者野球連盟
全国大会 2022/11/5・6



日本ブラインドテニス連盟
スペイン国際大会 2019/6/9

大野選手
B1クラス男子の部優勝
大会MVP

「修羅と石」展示場を提供

修羅とは築城の際に巨石などを運搬したそりの一種で、木製の台と丸太（ころ）から成り、郡山城の築城時にも用いられたとされています。



学園前アートフェスタ協賛

地域が一体となり、街を育てることを目的としたアートイベント。同地域に位置する「浅沼記念館」を会場の一つとして2015年の第1回より提供しております。



作業所での見学会の開催

地元自治会や小中高校など地域住民を対象とした見学会を開催しています。



文化・芸術活動支援

アートアンドアーキテクトフェスタ参加・協賛

東大寺で行なわれた建築学生ワークショップの様子



その他活動支援

大阪交響楽団 (<https://sym.jp/>)
大阪フィルハーモニー交響楽団
(<https://www.osaka-phil.com/>)
関西二期会 (<https://kansai-nikikai.com/>)

社 名	株式会社浅沼組 (ASANUMA CORPORATION)
代 表 者 名	代表取締役社長 浅沼 誠
創 業	1892年 (明治25年) 1月20日
設 立	1937年 (昭和12年) 6月15日
資 本 金	9,614百万円
事 業 内 容	総合建設業
従 業 員 数	1,700名 (連結) 1,273名 (単体) (2022年3月31日現在)
本 社 所 在 地	大阪市浪速区湊町一丁目2番3号 マルイト難波ビル
本 支 店 等	大阪、東京、名古屋、九州、広島、東北、北海道、さいたま、横浜、神戸、技術研究所
営 業 所	福島、茨城、千葉、多摩、北陸、静岡、三重、京滋、奈良、沖縄、グアム
子 会 社	国内 4社 海外 5社 (グアム、シンガポール、タイ王国)

浅沼組のリニューアル
ReQuality



人間は、自然の一部になれるだろうか。

水、土、森。自然が生命を育てている。生命は、やがて土に還り、また次の生命の糧となる。そうやって循環しながら、自然は持続していきます。人間はその循環に、どう関わっていけばよいのでしょうか。あらゆる業界で、その姿勢が問われています。建設業界は、どうか。建設会社として多くの建物やインフラをつくってきた浅沼組は、思います。人間の環境を整備することは、地球環境に手を加えることでもある。人間にも地球にも、よい循環を建設できなければ、建設業の未来はない。そこで浅沼組は「GOOD CYCLE PROJECT」を立ち上げました。新しい素材や技術の開発、サービスの提供などが始まっています。これからの浅沼組に、ご期待ください。



プロジェクトを見る



株式会社 浅沼組

2023年3月11日（土）

誇れる歴史がある
創りたい未来がある



お問合せ先

コーポレート・コミュニケーション部

T e l 06-6585-5500 F a x 06-6585-5556